

ねらい

土や水、砂の感触を味わい夢中になって遊ぶ中で、様々に考え、試して遊ぶことを楽しむ

発達・教師の援助
環境構成のポイント

- ・昨年度から年長児に憧れをもち、真似てつくっていた泥団子遊びを教師も一緒に遊びながら、時には刺激となって夢中になって遊べるようにする。
- ・泥団子(遊び)仲間と集ってつくったり、つくった泥団子を残したりして継続して遊べるように環境を整え、子どもの考えや発見、気づきなどに共感する。

実践内容

先生は光る泥団子
つくりたいな！

泥団子つくろう！

僕たちもつくりたい！

何度もさら粉かけて
こすると光るんだって

さら粉をかけると
ツルツルなるよ

言葉による伝え合い



一人ずつ袋と箱に大事に入れて残したり、集めたさら粉をテラスに置き、雨天時でも毎日継続したりできるようにする。初めての子どもも見通しやめあてをもって遊べるように光る泥団子の過程や写真を掲示した。



翌日から毎日続きをする友達やテラスの環境に興味をもち、泥団子仲間が増え始め、クラスや学年に遊びが広がる。担任だけでなく園長・教頭のつくる泥団子にも刺激を受け、より意欲的に遊ぶ。また、「今ぼくはこのへんかな」など掲示写真や友達の泥団子を見比べながら話したり、変化を喜んだりする姿があった。

そんなある日…A児に悲しい出来事が！

「ショックやなあ～大事につくってたもんなあ」と一緒に悲しみを共有し、「また明日つくろう！」と励ます。

何日も大事にしていた泥団子が壊れる！



この日から誰かの泥団子が壊れる度に「ショックやなあ～」が、共感と励ましの合言葉のようになり、友達と励まし合ったり、コツを伝えたりして、それぞれつくっては壊れを経験しながら繰り返し遊んでいた。

自立心

協同性

そして、壊れないきれいな泥団子をつくりたいと、「ねがい」が強くなり、それぞれの試しや発見、気づきが生まれ始めた。

【A児の気づき】教師の大きな泥団子に憧れてつくっていたが、失敗を繰り返すうちに自分の手に合った握りやすいサイズに気付く。



小さい方が壊れへん
のやで！

【A児の発見・発信】偶然、落ちていた園芸用の土をかけたことで感触の違いを感じ、早くツルツルサラサラに近づくことを発見し、友達にも伝える。



思考力の芽生え

言葉による伝え合い

黒さら粉や！

これ使くとショートカットできるで！

【B児の気づき】ヒビが入ると指を濡らして補修するようになる。ズボンや布で優しくこする。片付ける際は柔らかい布を敷いて大事に残す。



保育を振り返って 1年生につながるもの:意欲、自分の目標、思考力の芽生え、粘り強さ、工夫、仲間への共感、言葉による伝え合い

教師と一緒に遊ぶことで、大きさや形、硬さなど刺激になり、「自分もきれいな泥団子をつくりたい」と自分なりのめあてをもって意欲的に遊ぶ姿につながった。翌日に残したり雨天時でも毎日遊べるようにテラスに場を作ったりして継続して遊ぶ環境を整えたことで、めあてをもち続けたり、「明日はもっとツルツルにしたい」とさらに強くねがったりすることにつながった。また、壊れたりヒビが入ったりなどの失敗や思うように光らないという課題に会う度に、試行錯誤しながら、自分なりの気づきや発見、試し、工夫が生まれていた。励まし合ったりコツを伝え合ったりする友達や教師の存在も大きく、継続して遊ぶ姿につながった。